

## 南区 区域まちづくり事業 効果検証シート

事業名称		実施主体				
区民と協働した多職種連携健康づくり推進事業		南保健センター				
事業目的	事業内容	活動指標	R2	R3	R4	
区民と南保健センターの多職種(保健師・管理栄養士・歯科衛生士等)が協働して多面的な健康づくりの取り組みを実施することで、ソーシャルキャピタル(地域コミュニティ組織等の社会資本)を豊かにし、地域力を高めるとともに区民の健康レベルの向上につなげる。	健康づくり推進委員会や関係機関と南保健センターが健康に関する課題等について情報交換や共有を行い、幅広い年代層の区民へ健康づくりを推進ため、がん検診・健康診査の受診勧奨や健康づくりを啓発する。	地域への啓発回数	117回 (2260人)	72回 (1393人)	191回 (4317人)	
		関係機関との連携	21か所	29か所	36か所	
①妥当性	②協働の視点	③インパクト	④効率性			
○	区民との協働による健康づくりの推進は「健康さかい21(第2次)」「堺市南区基本計画」の趣旨に沿うものである。	◎	推進委員会(区民)との協働に加え、学校・企業・医療機関とも協働して取り組んでいる。	◎	区民が集まるイベントに出張し健康情報を発信する「みなみ健活キャラバン」を実施、協定企業と日頃体験できない健康チェックイベントを行った。「測りたくなる血圧計」として緑道をイメージした血圧計パネルを作成。自然豊かな南区の独自性を出している。	
◎	幅広い世代の来場者が見込まれるイベントにおいて、普段保健センター事業で出会うことができない層に効率的に啓発できる。質問票を用いて高血圧等のハイリスク者を把握し、個別支援につなげることができた。	◎				
⑤自立発展性	総合評価					
○	区民との協働により、健康に関する情報の交換や共有を行うことにより、区民自らが自発的に健康づくりを推進していくことができる。	○	青壮年期から健康に関心を持ってもらうため、身近な健康チェックとして血圧測定をする機会を確保。住民・地域との協働で健康課題の共有や啓発等を実施することにより、健康づくりに関する情報の届きにくかった区民にも伝えることができた。昨年度に続きコロナ禍で対面での事業は制限されたものの、ICTの活用やナッジ理論を活用した作成物を用いて、予防啓発の機会が希薄で健康に関心の低い青壮年層にも幅広く情報を発信できた。			
今後の方向性(課題、改善提案等)						
(拡充) 継続 見直し 廃止	今後は区民のヘルスケアと介護予防などに取り組む「南区健康長寿推進プロジェクト」の一環として、情報発信する際には情報を届けたい方をイメージし、見やすさ・分かりやすさ等を工夫しながら事業の更なる充実を図る。					